

# 防水スプレーの 吸入事故に注意

スプレーするだけで、水を弾き、汚れも付きにくくなる“防水スプレー”、梅雨の季節のお出かけには重宝しますよね。でも、ちょっと待ってください。上手に使わないと思わぬ事故を起こしてしまうことがあるのです。

多くの防水スプレーはエアゾールタイプです。内容液を細かい霧状に勢いよく噴射して使用します。噴射された内容液が靴や衣服などの対象物の表面に付着すれば問題ありませんが、一部は微粒子のまま空間に放出されます。この微粒子を吸い込むと咳、呼吸困難、肺炎を起こすことがあり、症状によっては入院治療が必要になることもあるのです。

防水スプレーには、シリコーン樹脂やフッ素樹脂といった水を弾く性質のある成分が使われていますが、これらは肺の奥まで達してしまうと、容易に除去されず、肺でのガス交換に支障をきたすためと考えられています。かつては、冬にスキー用品へ

の使用が多かった防水スプレー。最近では靴用、一般衣類用と用途が広がって年間を通して使われるようになり、使用する機会が増えることで、事故件数が増加しています。

防水スプレーの吸入は、スプレーから出た「粒子の大きさ」とスプレー対象への「付着率」の影響が大きく、ある程度大きな粒子は肺胞まで吸入されにくく、付着率が高いと空間に舞う粒子が少なくなるので吸入につながりにくいことが分かっています。製造メーカーは粒子の大きさと付着率について業界自主基準を設けて管理するとともに、製品に下記の警告表示を記載して、事故防止に努めています。しかしながら、吸入によるリスクはゼロにはなりませんので、使い方によっては思わぬ事故につながってしまうのです。

それでは、どんなことに注意すればよいのでしょうか。要点は、噴霧粒子が空間に滞留しないようにし、さらに噴霧粒子が

**注意**

**吸い込むと有害・必ず屋外で使用**

あっても吸入しないようにすることです。具体的には次のような注意が必要です。

**◆必ず風通しのよい屋外で使用する。玄関先や車内など空気の溜まりやすい場所では使用しない。**

まず第一に、防水スプレーは必ず屋外で使うことが肝要です。エアゾール製品の業界団体である一般社団法人日本エアゾール協会は「吸い込むと有害・必ず屋外で使用」という警告文を製品に表示することを自主基準に定めています。

**◆屋外で使用するときは、風向きに注意し、人にかかったり、室内に流れ込んだりしないようにする。**

屋外で使用しても、風向きによっては噴射した内容液を被ってしまうことがあり、実際に事故事例も報告されています。

**◆人体に向けて使用しない。また、顔の近くで使用しない。**

**◆一度に大量に使用しない。**

これらを守らないと吸入のリスクを上げることとなります。

**◆必ずマスクを着用する。**

注意して使用しても、空間に漂う噴霧粒子はゼロにはなりません。しかし、どのような場合でも、マスクの着用は吸入リスク

を下げます。

**◆肺や呼吸器に疾患のある人、子ども、高齢者、ペットは影響を受けやすいので注意する。**

影響を受けやすい人が使用するときだけでなく、使用者の周囲に影響を受けやすい人がいる場合も知らずに吸入することがないように注意しましょう。

防水スプレー吸引事故の多くは、これらの注意事項が守られていないことで発生しています。“使い方の分かり切った製品の注意表示など気にしない”といった態度や、“見てはいるが、自分は大丈夫”という根拠のない過信があって行動に反映されない、こういった安全意識の欠如が思わぬ事故を引き起こしています。防水スプレーに限らず化学製品による事故は、自分自身の注意で防げます。

製品の注意表示をよく見て、安全で正しい使用を心掛けましょう。

